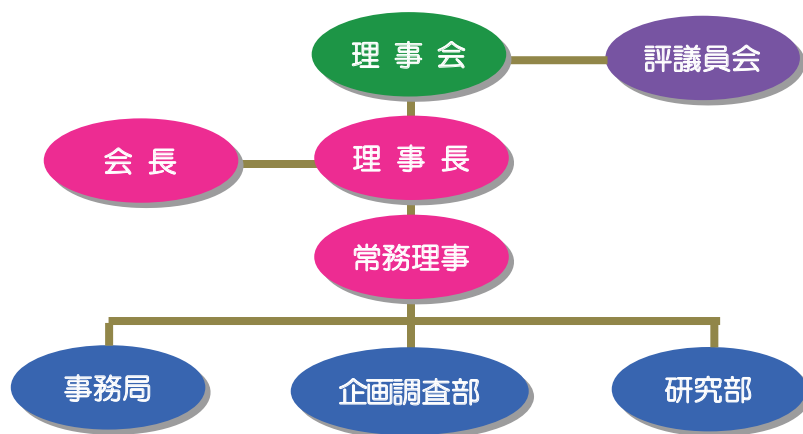


## 1. 財団の概要

法人名	公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団
理事長 (代表理事)	石塚 博昭 (2017年5月1日就任)
所在地	〒160-0022 東京都新宿区新宿一丁目34番5号 VERDE VISTA 新宿御苑3階
電話/FAX	03-5919-1631 (代表) / FAX 03-5919-1641
ホームページ	<a href="http://www.dia.or.jp/">http://www.dia.or.jp/</a>
設立	1993(平成5)年6月18日 (厚生省許可) 2010(平成22)年12月1日 公益財団法人に移行 (内閣府認定)
目的	高齢社会の諸問題に関する実践的な調査・研究活動を通じて、保健・医療及び福祉等の分野の課題の解決に寄与する
主な事業	高齢社会における「健康」「経済」「生きがい」に関する調査・研究、並びに諸問題に関する啓発活動・活動成果の普及
賛助会員 27社  (五十音順) (2019年7月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AGC 株式会社</li> <li>・ キリンホールディングス株式会社</li> <li>・ JXTG ホールディングス株式会社</li> <li>・ 東京海上日動火災保険株式会社</li> <li>・ 株式会社ニコン</li> <li>・ 日本郵船株式会社</li> <li>・ 株式会社ピーエス三菱</li> <li>・ 三菱アルミニウム株式会社</li> <li>・ 三菱化工機株式会社</li> <li>・ 三菱ガス化学株式会社</li> <li>・ 三菱ケミカル株式会社</li> <li>・ 株式会社三菱ケミカルホールディングス</li> <li>・ 三菱地所株式会社</li> <li>・ 三菱自動車工業株式会社</li> <li>・ 三菱重工業株式会社</li> <li>・ 三菱商事株式会社</li> <li>・ 三菱製鋼株式会社</li> <li>・ 三菱製紙株式会社</li> <li>・ 三菱倉庫株式会社</li> <li>・ 株式会社三菱総合研究所</li> <li>・ 三菱電機株式会社</li> <li>・ 三菱マテリアル株式会社</li> <li>・ 株式会社三菱 UFJ 銀行</li> <li>・ 三菱 UFJ 証券ホールディングス株式会社</li> <li>・ 三菱 UFJ 信託銀行株式会社</li> <li>・ 三菱 UFJ ニコス株式会社</li> <li>・ 明治安田生命保険相互会社</li> </ul>

## 2. 執行組織



当財団ホームページトップページ

### 3. 評議員・理事・監事

**評議員**

(2019年7月1日現在)

(敬称略。五十音順)

氏名	所属
秋山 弘子	東京大学 名誉教授
阿部 恵成	三菱電機株式会社 人事部次長
安藤 高夫	医療法人社団永生会 理事長
池上 直己	聖路加国際大学 特任教授
磯田 卓	東京海上日動火災保険株式会社 理事 総務部長
井上 貴至	株式会社三菱総合研究所 総務人事部長
荻原 隆二	介護老人保健施設 ハートテラス中野弥生町 施設長
門脇 勲	三菱マテリアル株式会社 執行役員 人事総務本部 人事部長
久保 人司	三菱地所株式会社 総務部長
菅原 弘子	一般社団法人地域共生政策自治体連携機構 事務局長
藤原 佳典	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長
丸井 英二	人間総合科学大学人間科学部 教授
簾 孝志	AGC株式会社 常務執行役員 人事部長
三好 敏也	キリンホールディングス株式会社 取締役常務執行役員
吉田 芳之	日本郵船株式会社 取締役専務経営委員 総務本部長

## 理事

(2019年7月1日現在)

(敬称略)

氏名	所属
会長 松尾 憲治	明治安田生命保険相互会社 特別顧問
理事長(代表理事) 石塚 博昭	三菱ケミカル株式会社 特別顧問
常務理事(業務執行理事) 樋渡 泰典	公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 常務理事
浅野 洋介	公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団
江澤 和彦	公益社団法人日本医師会 常任理事
河村 博江	一般財団法人長寿社会開発センター 理事長
黒澤 彰広	三菱商事株式会社 総務部長
齋藤 訓子	公益社団法人日本看護協会 副会長
関 浩之	株式会社三菱UFJ銀行 執行役員 人事部長
田中 滋	埼玉県立大学 理事長
堀田 力	公益財団法人さわやか福祉財団 会長
三島 正彦	三菱重工業株式会社 常務執行役員
水田 邦雄	一般社団法人シルバーサービス振興会 理事長
山本 則子	東京大学大学院 医学系研究科 教授

## 監事

(2019年7月1日現在)

(敬称略。五十音順)

氏名	所属
岡田 匡雅	三菱UFJ信託銀行株式会社 取締役常務執行役員
金子 茂夫	金子会計事務所 (公認会計士・税理士)

#### 4. 理事会・評議員会の開催状況

##### 理事会

開催日 (※：定時理事会)	決議事項 (○)・報告事項 (◇)
2018年 5月 21日 (※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2017 年度事業報告、計算書類(貸借対照表および正味財産増減計算書)および附属明細書ならびに財産目録承認の件</li> <li>○ 賛助会員退会の件</li> <li>○ 定時評議員会の日時および場所ならびに目的である事項等の件</li> <li>◇ 評議員、理事、監事候補者の件</li> <li>◇ 職務遂行状況報告の件</li> </ul>
2018年 6月 6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 役員互選の件</li> <li>○ 事務局長承認の件</li> </ul>
2019年 3月 5日 (※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2018 年度 第2回評議員会の日時および場所ならびに目的である事項等の件</li> <li>○ 2019 年度 事業計画および収支予算の件</li> <li>◇ 職務遂行状況報告の件</li> <li>◇ 基本財産等の管理運用状況の件</li> </ul>

##### 評議員会

開催日 (※：定時評議員会)	決議事項 (○)・報告事項 (◇)
2018年 6月 6日 (※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2017 年度計算書類(貸借対照表および正味財産増減計算書)および附属明細書ならびに財産目録承認の件</li> <li>○ 評議員選任の件</li> <li>○ 理事選任の件</li> <li>○ 監事選任の件</li> <li>◇ 2017 年度事業報告の件</li> <li>◇ 賛助会員退会の件</li> </ul>
2018年 7月 12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 理事選任の件</li> </ul>
2018年 8月 10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 理事選任の件</li> </ul>
2018年 10月 1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 理事選任の件</li> </ul>
2019年 3月 5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2019 年度 事業計画および収支予算の件</li> <li>○ 評議員選任の件</li> <li>○ 理事選任の件</li> <li>◇ 職務遂行状況の件</li> <li>◇ 基本財産等の管理運用状況の件</li> </ul>
2019年 3月 27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 評議員選任の件</li> </ul>

## 5. 研究スタッフ (2019年4月1日現在)

石橋 智昭 主席研究員／研究部長 (博士&lt;医学&gt;)

専門領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルスサービスリサーチ</li> </ul>
研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護サービスの質の可視化</li> <li>介護保険制度の政策評価</li> <li>生きがい就業の健康維持効果</li> </ul>
近年の主な業績	<p>(著書／分担執筆)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護職員 初任者研修テキスト(分担執筆)：介護労働安定センター(2018年)</li> <li>インターライ方式ガイドブック；ケアプラン作成・質の管理・看護での活用(編著)：医学書院(2017)</li> <li>就労支援で高齢者の社会的孤立を防ぐ 社会参加の促進と QOL の向上；第5章 生きがい就業を支える社会システム(分担執筆)：ミネルヴァ書房(2016)</li> <li>Long-term care reforms in OECD countries; POLICY PRESS, 2016</li> <li>ジェロントロジー・ライブラリー②高齢者の就業と健康 何歳まで働くべきか；第3章-1 介護予防になる生きがい就業のかたち(分担執筆)社会保険出版社(2016)</li> <li>Towards Human Rights in Residential Care for Older Persons: International Perspectives; Human rights and residential care for older people in Japan. Routledge, 2015.</li> <li>Regulating Long-Term Care Quality; An International Comparison. Cambridge University Press, 2014.</li> <li>介護職員 初任者研修テキスト(分担執筆)：ミネルヴァ書房(2013年)</li> <li>インターライ方式 ケア アセスメント—居宅・施設・高齢者住宅(翻訳). 医学書院(2011年)</li> </ul> <p>(論文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シルバー人材センター会員の前職と希望する職種の関係 老年社会科学 38-1 (2016)</li> <li>生きがい就業を支えるシルバー人材センターのシステム. 老年社会科学, Vol.37-1, 2015.</li> <li>「介護予防の観点からみた生きがい就業の効用. 『病院設備』(VOL.56-4, 2014)</li> <li>介護人材をどう確保するか: 日本版キャリアパスの検証(特集 高齢先進国のビジョン) 『病院』 71(9) 708-712 (2012年9月)</li> <li>アセスメントデータを用いた居宅ケアの質の評価—HC-QI の活用. 老年社会科学 33(3)484-489(2011年)</li> <li>Should the provision of home help services be contained?: validation of the new preventive care policy in Japan. BMC health services research 10 224(2010年)</li> </ul> <p>(競争的資金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第46回(平成27年)三菱財団 社会福祉事業・研究助成「高齢者が支え手側となる「生きがい就業」の有用性検証」</li> <li>科学研究費助成事業(2013-2015)「ケア現場のエビデンス集積を促進する利用者データベースの構築」</li> <li>ファイザーヘルスリサーチ振興財団・国際共同研究助成(2009年)：「訪問介護による生活援助と機能状態の関係」；デンマークにおけるパネルデータの検証から見た今後の日本の介護予防施策</li> </ul>
大学・関係団体での役職	<ul style="list-style-type: none"> <li>慶應義塾大学医学部 非常勤講師</li> <li>東邦大学看護学部 非常勤講師</li> <li>(公社)全国シルバー人材センター事業協会 優良センター等選定委員</li> <li>特定非営利活動法人インターライ日本 理事</li> <li>東京都健康長寿医療センター (研究協力員)</li> </ul>

澤岡 詩野 主任研究員（博士<工学>）

専門領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老年社会学（社会関係）、都市社会学、建築学（都市計画）</li> </ul>
研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市高齢者の周縁部の社会関係(仲間や知合いなどのゆるやかなつながり)</li> <li>・ 社会とつながり続ける手段としての ICT の可能性（情報通信技術）</li> <li>・ 高齢期の第三の居場所（家庭、職場に続く居心地の良い場の形成）</li> </ul>
近年の主な業績	<p>(著書／分担執筆)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 袖井孝子編著、佐藤滋、辻利夫、澤岡詩野他「地方創生」へのまちづくり・ひとづくり」ミネルヴァ書房、2016</li> <li>・ 荻窪家族プロジェクト物語；住む人・使う人・地域の人みんなでつくり多世代で暮らす新たな住まい方の提案、荻窪家族プロジェクト編著：瑠璃川正子、澤岡詩野、連建夫他、萬書房、2016</li> </ul> <p>(論文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市高齢者のボランティア活動と継続意識；よこはまシニアボランティアポイント制度登録者における検討；澤岡詩野、渡邊大輔、中島民恵子、大上真一、応用老年学、第11巻、61-70、2017</li> <li>・ 高齢者が日常生活において交流している他者との関係；古谷野亘、澤岡詩野、菅原育子、西村昌記、老年社会科学 38(3)、345-350、2016</li> <li>・ 都市高齢者の近隣との関わり方と支え合いへの意識；非常時と日常における近隣への意識に着目して；澤岡詩野、渡邊大輔、中島民恵子、大上真一、老年社会科学、第37巻第3号、306-315、2015</li> <li>・ 高齢者の非親族との電子メールを介した交流の特性；澤岡詩野、袖井孝子、森やす子、荒井浩道、社会情報学、第2巻第3号、15-26、2014</li> <li>・ 都市部の企業退職者の社会活動と社会関係におけるインターネットの位置づけ；澤岡詩野、応用老年学、第8巻第1号、31-39、2014</li> <li>・ 都市のひとり暮らし後期高齢者における他者との日常的交流；澤岡詩野、古谷野亘、本田亜起子、老年社会科学、第34巻第1号、39-45、2012</li> <li>・ 社会関係の研究において用いられている非親族との関係の指標；日本の高齢者を対象とした最近の実証研究のレビュー；澤岡詩野、古谷野亘、老年社会科学、第33巻第1号、47-59、2011</li> </ul> <p>(競争的資金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成29年度長寿科学研究者支援事業(平成29年～31年) ゆるやかなソーシャルキャピタルを醸成する介護予防事業の構築・継続要因に関する研究</li> <li>・ 平成25年度厚生労働科学研究費補助金(平成23年、研究代表者 藤原佳典、分担研究者)地域保健事業におけるソーシャルキャピタルの活用に関する研究</li> <li>・ 平成23年度文部科学省科学研究費補助金 若手A(平成23～平成25年) 日常化しつつある都市在宅高齢者の交流媒体としてのインターネットの役割</li> <li>・ 平成22、23年度福祉医療機構事業助成(申請 シニア社会学会) ICTによる高齢者孤立防止事業、孤立防止モデル普及事業</li> <li>・ 平成22年度日本興亜福祉財団ジェロントロジー研究助成 ICTを活用した後期高齢期における社会活動継続に関する研究</li> <li>・ 平成20年度大川情報通信基金研究助成(申請代表 袖井孝子) 高齢社会における高齢者のIT利用とQOL(生活の質)の向上</li> </ul> <p>(受賞歴)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成28年度日本老年社会学会 論文賞</li> <li>・ 平成23年度日本老年社会学会 奨励賞</li> <li>・ 平成14年度三井住友海上福祉財団賞 高齢者福祉部門 佳作</li> </ul>
大学・関係団体での役職	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法政大学現代福祉学部 非常勤講師（データの収集と分析Ⅰ・Ⅱ）</li> <li>・ 東京都健康長寿医療センター研究所 協力研究員</li> <li>・ 日本老年社会学会(広報委員、編集委員)、日本応用老年学会（監事、編集委員）、シニア社会学会（理事）</li> <li>・ 日本建築学会、日本都市社会学会、社会情報学会、The Gerontological Society of America 会員</li> <li>・ (公財)東京都防災・建築まちづくりセンター 理事</li> <li>・ 総務省平成29年度「IoT新時代の未来づくり検討委員会」高齢者SWG 構成員</li> <li>・ 内閣府平成27年度～平成29年度 高齢社会フォーラム運営委員</li> <li>・ 内閣府平成28年度「高齢者の経済・生活環境に関する調査」検討委員会</li> <li>・ 鎌倉市平成28年度 鎌倉市住宅マスタープラン策定委員会 委員</li> <li>・ 内閣府平成27年度「高齢者の生活と意識国際比較調査」分析検討委員</li> </ul>

## 二宮 彩子 研究員 (博士&lt;看護学&gt;)

専門領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎看護学、地域看護学、在宅ケア看護学</li> </ul>
研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の生理反応 在宅ケアにおける訪問看護師の役割</li> <li>長期療養施設における看護師の well-being</li> </ul>
近年の主な業績	<p>(著書／分担執筆)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>坪井良子、松田たみ子編、考える基礎看護技術 I [第3版] ー看護技術の基本ー；第10章「ヘルスアセスメント」系統別フィジカルアセスメント血圧測定／意識レベル(分担執筆)：ヌーヴェルヒロカワ(2005)</li> <li>日野原重明・井村裕夫監修、安原真人編、コメディカルのための最新医学講座 薬物療法；肝障害患者(分担執筆)：中山書店(2002)</li> <li>高崎絹子、島内節、内田恵美子、佐藤美穂子編著、看護職が行う在宅ケアマネジメント；活動表活用によるケアマネジメント評価(分担執筆)：日本看護協会出版会(1996)</li> <li>島内節、久恒節子編著、地域看護学講座8 老人地域看護活動；諸外国の在宅ケア、スウェーデンにおける在宅ケア・デンマークにおける在宅ケア(分担執筆)：医学書院(1994)</li> </ul> <p>(論文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Ayako Ninomiya, Yayoi Saito, Fall prevention in the elderly during active standing from the perspective of circulatory dynamic state and autonomic nerve activity—Nursing support based on differences in sleeping style—,Journal of the Ochanomizu Association for Academic Nursing,5 (2) , 18-31, 2011</li> <li>二宮彩子, 後藤孝子, 本田彰子, 齋藤やよい；中堅看護職者の学習環境と学びのプロセス (第3報) ー「学び直し教育プログラム」受講後の自己評価を通してー, お茶の水看護学雑誌 4(1), 29-36, 2009</li> <li>増田敦子, 二宮彩子, 小泉仁子, 女子大生を対象とした血圧測定におけるカフ幅の検討, 了徳寺大学研究紀要 1, 141-149, 2007</li> <li>佐々木吉子, 二宮彩子, 小泉仁子, 小林敏生, 根本清次, 増田敦子, 同一体位の保持と生体反応ー生理反応, 苦痛, および諸要因の関連ー, 日本看護研究学会雑誌 26(5), 123-132, 2003</li> </ul> <p>(競争的資金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科学研究費助成事業基盤 C (2019-2021) 「訪問看護師と協同で行う訪問介護員のための看取り学びシステムの構築」</li> <li>科学研究費助成事業若手研究 (B) (2007-2009) 「訪問看護師による効果的な在宅リハビリテーションを行う為の病院との連携に関する研究」</li> <li>科学研究費助成事業萌芽研究 (2004-2005) 「起立性低血圧に後発する高血圧の実態ー高齢者が安全に布団から起き上がるためにー」</li> <li>龍谷大学福祉大学福祉フォーラム共同事業 (龍谷大学助成金) (2003) 「起坐位保持による臀部への体圧の実態と褥創予防との関係ー呼吸器疾患患者における苦痛緩和の試みー」</li> </ul>
大学・関係団体での役職	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京大学健康科学・看護学専攻客員研究員</li> </ul>

土屋 瑠見子 研究員 (博士<保健学>)

専門領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リハビリテーション、老年学、公衆衛生学</li> </ul>
研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院リハビリテーション職種による退院調整</li> <li>・ 要介護高齢者に対する居住環境評価手法の開発</li> </ul>
近年の主な業績	<p>(著書／分担執筆)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 池上直己, 石橋智昭, 高野龍昭[編著]: インターライ方式ガイドブック～ケアプラン作成・質の管理・看護での活用～. 医学書院 2017年12月、第4章「よくある質問に対する回答」執筆.</li> <li>・ 東京大学高齢社会総合研究機構[編]: 地域包括ケアのすすめー在宅医療推進のための多職種連携の試み. 東京大学出版. 2014年3月、第5章第1節「多職種連携の土台作り: 2つの取り組み」</li> </ul> <p>(論文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Tsuchiya-Ito R, Slaug B, Ishibashi T. The physical housing environment and subjective well-being among older people using long-term care services in Japan. Journal of Housing for the elderly (online).</li> <li>・ 土屋瑠見子, 吉江悟, 川越正平, 平原佐斗司, 大西弘高, 西永正典, 村山洋史, 飯島勝矢, 辻哲夫. 在宅医療推進のための多職種連携研修プログラム開発: 都市近郊地域における短期的効果の検証. 日本公衆衛生雑誌 64(7), 359-370, 2017. (学会発表)</li> <li>・ Tsuchiya-Ito R, Slaug B, Ishibashi T (2018.11.13-17): The indoor housing environment and self-rated health among older people using long-term care services. (In SYMPOSIUM: Perceived and objective aspects of home and health: Aging in Place in Japan and Sweden).GSA 2018 Annual Scientific Meeting, Boston, Massachusetts (Presenter)</li> <li>・ 土屋瑠見子・石橋智昭・小野恵子・池上直己 (2018/10/24-26). 介護保険施設入所者の活動・参加と生活満足度との関連ー国際生活機能分類による検討ー. 第77回日本公衆衛生学会総会, 福島</li> <li>・ 土屋瑠見子・石橋智昭 (2018/6/9-10). 要介護高齢者における屋内住環境と主観的健康感との関連. 日本老年社会学会第60回大会, 東京</li> <li>・ 土屋瑠見子, 早尾弘子, 石橋智昭(2017.10.31-11.02). 認知機能の障害度がその後の要介護度の改善に与える影響. 第76回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島県.</li> </ul> <p>(競争的資金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成30年度 ファイザーヘルスサービスリサーチ振興財団研究助成(国際共同研究): 要介護高齢者の残存能力を最大化する住環境評価尺度: 日本の住環境への適応. 研究代表者: 土屋瑠見子</li> <li>・ 平成29年度スカンジナビア・ニッポンササカワ財団助成. 高齢者用住環境評価指標の日本版作成に向けた予備的研究～スウェーデンと日本の住環境比較～.</li> </ul> <p>(受賞)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土屋瑠見子, 早尾弘子, 石橋智昭 (2017). 第76回日本公衆衛生学会総会 優秀ポスター賞 (演題名: 認知機能の障害度がその後の要介護度の改善に与える影響).</li> </ul>
大学・関係団体での役職	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 慈恵柏看護専門学校 非常勤講師</li> <li>・ 東京都健康長寿医療センター研究所 非常勤研究員</li> </ul>



## 安 順姫 研究員（修士〈老年学〉）

専門領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老年学</li> </ul>
研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ うつ予防教室終了後の自主グループ活動の推進</li> <li>・ 介護予防教室終了後の自主活動定着のための支援のあり方</li> <li>・ うつ予防プログラムの普及・定着</li> </ul>
近年の主な業績	<p>(論文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安順姫、芳賀博、兪今：介護予防ボランティア登録者の活動への参加頻度に関連する要因. 老年学雑誌 2011 ; 2 : 1-13.</li> </ul> <p>(学会発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安順姫、兪今：「うつ予防教室終了後の自主活動がその後のメンタルヘルスに与える効果」第 77 回日本公衆衛生学会総会(2018/10/24-26、福島県)</li> <li>・ 兪今、安順姫、張慶鎬：「中国の高学歴層高齢者における睡眠状態とその関連要因」第 82 回日本健康学会(2017/11/10-11、沖縄県)</li> <li>・ 安順姫、兪今：「うつ予防教室終了後における自主グループ活動への参加の実態およびその関連要因－神奈川県 C 市を事例とした検討－」第 12 回日本応用老年学会大会(2017/10/22、東京都)</li> <li>・ 安順姫、兪今：「高齢者の主観的幸福感とハッピープログラムの実施状況との関連」第 59 回日本老年社会学会大会(2017/6/14-16、名古屋)</li> <li>・ 兪今、安順姫：「高齢期における幸福感がその後の抑うつ発症に与える影響；5 年間の縦断的研究から得られた知見」第 32 回日本老年精神医学会学術集会(2017/6/14-16、名古屋)</li> <li>・ 兪今、安順姫：「中国の高学歴層高齢者における抑うつの性差とその関連要因」第 81 回日本民族衛生学会総会(2016/11/26-27、東京都)</li> <li>・ 兪今、安順姫、岩田明子、黒澤侑子：「Effectiveness of “Happy Program” in promoting mental health and well-being at workplace(“ハッピープログラム”が労働者のメンタルヘルスの維持増進に対する有効性について)」第 31 回国際心理学会議／日本心理学会第 80 回大会(2016/7/24-29、横浜)</li> <li>・ 安順姫、兪今：「高齢者の近所つきあいの経年変化とその関連要因」第 57 回日本老年社会学会大会(2015/6/13-14、横浜)</li> </ul> <p>(競争的資金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 29 年度 科学研究費助成事業(平成 29～平成 30 年度)：うつ予防教室終了後の自主活動定着のための支援に関する研究</li> </ul>

中村 桃美 研究員（修士〈老年学〉）

専門領域	・ 老年学
研究テーマ	・ シルバー人材センターにおける QOL 維持増進効果の検証
近年の主な業績	<p>(著書／分担執筆)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジェロントロジー・ライブラリー②高齢者の就業と健康 何歳まで働くべきか；第3章-1 介護予防になる生きがい就業のかたち(分担執筆)社会保険出版社(2016)</li> </ul> <p>(論文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中村桃美・石橋智昭：「シルバー人材センターに対する会員の領域別満足度と関連要因の検討」応用老年学, 12(1), 2018</li> <li>・ 中村桃美, 石橋智昭：「生きがい就業における年齢階層別の就業実態；シルバー人材センター7ヶ所への調査から」. 応用老年学, 11(1), 2017.</li> <li>・ 塚本成美, 中村桃美, 石橋智昭：「シルバー人材センター会員の前職と希望する職種の関係」. 老年社会科学, 38(1), 2016</li> <li>・ 中村桃美, 長田久雄, 杉澤秀博：「都市部シルバー人材センターにおける就業の高次生活機能の低下抑制への影響」. 老年学雑誌, (6), 2016</li> <li>・ 石橋智昭, 中村桃美：「介護予防プログラムへの生きがい就業の活用」病院設備, 56(4), 2014 (学会発表)</li> <li>・ 中村桃美・塚本成美・石橋智昭：「シルバー人材センター会員の加齢と就業①；配分金からみた就業量の変化」. 第60回日本老年社会学会大会(2018/6)</li> <li>・ 塚本成美・中村桃美・石橋智昭：「シルバー人材センター会員の加齢と就業②；就業した仕事内容の変化」. 第60回日本老年社会学会大会(2018/6)</li> <li>・ 石橋智昭・中村桃美・塚本成美：「80歳以降も支え手側に回る高齢者の実態；都内4カ所のシルバー人材センターの会員調査」. 第60回日本老年社会学会大会(2018/6)</li> <li>・ 中村桃美・石橋智昭：「シルバー人材センターでは会員の健康度に適した就業が分配されているのか」. 第76回日本公衆衛生学会大会(2017/11)</li> <li>・ 中村桃美・石橋智昭：「シルバー人材センター会員が実感する生きがい就業の効果」. 第12回日本応用老年学会大会(2017/10)</li> <li>・ Momomi Nakamura・Tomoaki Ishibashi・Hisao Osada：「Expectation and Reality of New SHRC Member：The Related with Job Matching and Satisfaction」. The 21th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics(2017/7)</li> <li>・ 中村桃美・石橋智昭・塚本成美：「シルバー人材センター会員の大規模実態調査(1)；年齢段階別にみた就業の程度と内容」. 第59回日本老年社会学会大会(2017/6)</li> <li>・ 石橋智昭・中村桃美・塚本成美：「シルバー人材センター会員の大規模実態調査(2)；生活機能の自立性からみた会員の健康水準」. 第59回日本老年社会学会大会(2017/6)</li> <li>・ 中村桃美, 石橋智昭, 長田久雄：「シルバー人材センターでの就業による生活機能改善効果；6センターでの調査結果から」. 第75回日本公衆衛生学会大会(2016/11)</li> <li>・ 中村桃美, 石橋智昭：「シルバー人材センターのホワイトカラー出身会員の希望職群への就業の有無と退会」. 第11回日本応用老年学会大会(2016/10)</li> <li>・ 中村桃美, 石橋智昭, 長田久雄, 岡真人：「シルバー人材センターにおける配分金額の分布と会員の満足度；都市部Aセンターの会員調査から」. 第58回日本老年社会学会大会(2016/6)</li> <li>・ 中村桃美, 石橋智昭, 長田久雄：「シルバー人材センターの就業による介護予防効果；生活機能の改善に焦点をあてて」. 第74回日本公衆衛生学会大会(2015/11)</li> <li>・ 中村桃美, 石橋智昭, 長田久雄, 岡真人：「シルバー人材センター会員の地域活動への参加」. 第57回日本老年社会学会大会(2015/6)</li> </ul> <p>(競争的資金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学研究費助成事業(2018-2020)「高齢期の認知機能低下は生きがい就業を不可能にするか；支援方法構築のための基礎研究」.</li> </ul>
大学・関係団体での役職	・ 社会福祉法人亀鶴会公益的取組み推進委員

## 森下 久美 研究員（修士〈老年学〉）

専門領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老年学、栄養学</li> </ul>
研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の人の家族介護者支援</li> <li>・ シルバー人材センターにおける安全就業支援</li> </ul>
近年の主な業績	<p>(著書／分担執筆)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症介護研究・研修仙台センター [編]: 厚生労働省平成 29 年度老人保健健康増進等事業; 認知症の家族等介護者支援に関する調査研究事業(成果物); 「専門職のための Q&amp;A でわかる認知症の家族介護者支援ガイドブック」. 2018 年 3 月. 第 2 章 8 節 「子育てと介護の両方をおこなうものへの支援」</li> </ul> <p>(学会発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森下久美・中村桃美・石橋智昭: 「高齢者に対する認知症サポーター養成講座の有用性の検討」 第 77 回日本公衆衛生学会総会(2018/10)</li> <li>・ 森下久美・矢吹知之・長田久雄・関野明子: 「老老介護における空白の期間の実態; 認知症家族介護における検討」 第 13 回日本応用老年学会大会(2018/10)</li> <li>・ 森下久美・長田久雄: 「大学生の認知症の人への態度と知識の関連」. 第 60 回日本老年社会学会大会(2018/6)</li> <li>・ 森下久美・長田久雄: 「大学生の認知症の人への態度と関連要因の検討; 非医療福祉系専攻の学生に着目して」. 第 19 回日本認知症ケア学会大会(2018/6)</li> <li>・ 森下久美・長田久雄: 「大学生の認知症の人への態度とエイジズムの関連; 非医療福祉系専攻の学生に着目して」. 第 31 回日本健康心理学会大会(2018/6)</li> <li>・ 森下久美: 「在宅認知症高齢者介護における家族の心理状況; 主介護者の孫・ひ孫に着目して」. 第 30 回日本健康心理学会大会若手シンポジウム(2017/9/1)</li> </ul>

研究スタッフの詳細は当財団ホームページをご参照ください

<http://dia.or.jp/profile/researcher/>



リンクしない場合は財団のトップページからアクセスしてください

【客員研究員】

塚本 成美（城西大学経営学部 教授）

専門領域・テーマ	・ 経営社会学、経営組織論、人事労務論、雇用労働論
----------	---------------------------

渡辺 修一郎（桜美林大学大学院 老年学研究科 教授）

専門領域・テーマ	・ 老年学、地域保健学、産業保健学、老年医学
----------	------------------------

高野 龍昭（東洋大学ライフデザイン学部 准教授）

専門領域・テーマ	・ 介護保険、ケアマネジメント
----------	-----------------

小野 恵子

専門領域・テーマ	・ 地域・老年看護学、在宅ケア、在宅看護、訪問看護
----------	---------------------------

阿部 詠子（順天堂大学保健看護学部 講師）

専門領域・テーマ	・ 在宅看護、多職種連携・協働・多因子介入
----------	-----------------------

五十嵐 歩（東京大学医学部 講師）

専門領域・テーマ	・ 老年看護学（慢性期医療・施設・在宅における高齢者ケアの質評価・改善）
----------	--------------------------------------

松田 文子（公益財団法人大原記念労働科学研究所 特別研究員）

専門領域・テーマ	・ 労働科学、人間工学、産業組織心理学、安全工学
----------	--------------------------

早尾 弘子（公益社団法人日本看護協会）

専門領域・テーマ	・ 基礎看護学、健康情報分析学
----------	-----------------

森田 彩子（東京医科歯科大学国際健康推進医学分野 講師）

専門領域・テーマ	・ 社会医学、公衆衛生学・健康科学、国際保健学
----------	-------------------------

## 6. 他機関・団体等との交流

### (1) 「事業説明会」の開催

賛助会員会社を対象とする「第9回事業説明会」を9月13日に開催しました。13社16名の参加を得て、財団の事業概要及び調査研究について説明し、質疑応答を行いました。

### (2) 内閣府主催「平成30年度 高齢社会フォーラム」への参画

2019年1月22日に「誰もが生きがいを持ち、活躍する地域へ～人生100年時代のエイジレス社会とは～」をテーマに開催されたフォーラムに、澤岡詩野主任研究員が企画運営委員及び第3分科会『通い続けられる、通い続けたい「通いの場」とは?』のコーディネーターとして参画しました。

### (3) 国際長寿センターと共催でシンポジウムを開催

2018年11月16日に国際長寿センターと共催で「高齢化先進国の日本! みんなが主役となって創る地域社会とは」をテーマにシンポジウムを開催し、海外と日本の最新トレンドを紹介しつつ人生100年時代における高齢者の活躍について考えました。

### (4) 三菱グループ広報誌『マンスリーみつびし』に当財団関連記事掲載

『マンスリーみつびし』10月号に当財団と明治安田生活福祉研究所との共同調査「仕事と介護の両立と介護離職に関する調査」の結果及び森企画調査部長のインタビューをベースにした特集記事「STOP! 介護離職」が掲載されました。また、同号「三菱のDNA」のコーナーに当財団設立間もない頃の話が掲載されました。

### (5) シルバーサービス振興会の活動への参画

シルバーサービス振興会の活動に正会員団体として参画しています。